

8th World Melioidosis Congress 2016 に参加しました(2016/8/7-10)

テーマ：メリオイドーシス感染症
会場：フィリピン・セブ

8月7～10日にフィリピン・セブ島で開催された8th World Melioidosis Congress 2016に当研究所の浩日 助教（災害医学研究部門・災害感染症学分野）が参加し、熱帯感染症のメリオイドーシス（melioidosis）に関する共同研究成果を発表しました。メリオイドーシスは、東南アジア・オーストラリアが流行地域ですが、フィリピンでの報告は殆どなく見過ごされている可能性があります。今回共同研究者の8th World Melioidosis Congress 2016会長であるフロリダ大学のDr. Apichaiがフィリピンでのメリオイドーシスの調査をきっかけに、初めてフィリピンで会議を開催しました。我々の研究結果からMelioidosis感染症の患者で活性化macrophage由来のバイオマーカーが著増していることを発表しましたが、これは病原菌のmacrophageへの感染で活性化が起こるためだろうと思われました。また、学会中にフィリピン側の共同研究者やタイの研究者らとも今後の計画について相談することができました。

共同成果の発表は以下の通りです。（当研究所所属教員に下線）

Dramatic Increases of Multiple Cytokine/Chemokine in Patients with Melioidosis: Comparison with Dengue Patients.

Haorile Chagan-Yasutan, Vannarat Saechan, Jedsada Kaewrakmuk,
Apichai Tuanyok, Toshio Hattori

A Multidisciplinary Team Approach to Uncover Epidemiology of Melioidosis in the Philippines.

Apichai Tuanyok, Armin N. Masbang, Susan P. Leano, Zai Reyes,
Cecille Bello, Maricel R. Ribo, Haorile Chagan-Yasutan, Nobuo Saito,
Chie Nakajima, Yasuhiko Suzuki, Ayako Sumi, Michael H. Norris,
Thomas A. Weppelmann, Jason K. Blackburn, Herbert P. Schweizer,
Christopher Parry, Toshio Hattori and Elizabeth Freda O. Telan.



タイの研究者らと

文責：浩日 助教（災害医学研究部門）